

「千葉の朝は早かった」

氏名：	まこっちゃん
SNS：	@makotookano (x)
	WACATE 実行委員
所属：	QA ゼミお世話係 JaSST nano お世話係
分野：	Web/その他

千葉の朝は早かった

正確に言うと、私が 1994 年 4 月から新聞奨学生として 1 年間滞在した千葉県佐倉市の朝は早かった。新聞奨学生というのは、新聞社が実施する奨学金制度で、在学中（私の場合は予備校）に新聞配達などの業務をすることで、学費の支援を受けることができる制度のこと。佐倉市はベッドタウンであるため、余裕をもって朝刊を届けなくてははいけない。そのために早朝 2 時半には新聞販売所に出勤する必要があった。

学習時間の確保に配達時間の短縮が必要だった

志望する大学に入りたかった。私の場合は朝刊も夕刊も配る契約になっていたから、学習時間を確保するため、できるだけ新聞配達業務にかかる時間を縮めないといけなかった切実なニーズがあった。

どうすれば縮められるのか考えた

まず、どこに縮める余地があるか考えた紙に書いてみたり時間を計算したりした。（以降朝刊の例）

- ① 広告を新聞に挟み込む手作業（30 分）
- ② バイクに積載する（15 分）※ 5 分 x 3 回に分割。一度に積載しきれないため。
- ③ 配達する（200 分）※ 約 200 軒に配る必要があり 1 軒あたり約 1 分必要だった。（1 軒あたり 1 秒でも短縮できれば 3 分以上短縮できる見込みが見えた時には希望の光が見えた気がした）

さらに分解してみた

配達する時間の占める割合が高い（全体時間の 82%）ことがわかる。ここを減らさねばいくらほかの作業を効率化しても大きな効果は狙えない。ただ、「配達する」という粒度では改善の余地を特定することはできない。なので、さらに分解して考えた。①家から家への移動→②新聞を取り出す→③ポストに投函するために停止する→④新聞を投函する。結論から言うと、③がボトルネックだった。必要十分に減速すれば停止せずに新聞を安全に投函できる。それだけで、一軒当たり 10 秒以上短縮できた（つまり全体で 30 分以上）。そのほかの改善を重ね。当初 4 時間ほどかかっていた朝刊配達が、3 時間を切り、笑い話に聞こえるかもしれないが、新聞配達所では区間新記録だと称えられた。

そして、翌年の春、無事に桜が咲いた。その後しばらくは朝 2 時過ぎに目が覚めた。